

様式第2号

視察研修先	大阪府柏原市	氏名	古沢 清志
視察研修項目	市内循環バス運行事業について		
概 況 柏原市は大阪平野の南東、大阪府と奈良県との府県境に位置しています。市域の3分の2を山が占め、中央部を大和川が流れ、緑の山々と美しい溪谷などがあり多彩な自然環境を備えた、とても暮らしやすいところです。人口は約7万人。 質 疑 問① 利用料金を無料にした理由、及び参考にした事例等あれば教えてください。 答① 市内を運行する多くのバス路線が廃止されたことを受け、これらを代替えし、高齢者や障がい者の外出支援、地域活性化、公共施設や駅へのアクセス向上などを目的に平成10年にこの事業が開始された。無料にした理由や背景は、当時路線バスの廃止が相次いでおり、補助金を出して路線バスを維持するのではなく、行政が中心となり市民の足を維持する手段として、実施したものです。また、主なバス利用者は高齢者等であることから、福祉の向上を目的に利用者の料金は無料とし、道路運送法の適用外となる形で運行を開始した。 問② 一日当たりの利用者数と利用者の主な年齢層を教えてください。 答② 運行日は平日(市役所の開庁日)であり、令和5年度は一日当たり772人、年間18万7,697人が利用しています。利用者の年齢層については、直近実施したアンケートによると、65歳以上の方が80.9%となっている。 問③ 運行ルートを作成するにあたり、検討した内容を教えてください。 答③ 現行ルートについては、市立柏原病院、老人福祉センターに市内各地域からアクセスできることを意識して作成されています。なお、現在公共施設の再編等に伴い、市内循環バスの再編を予定して作成されており、アンケート調査、住民意見交換会等を実施し、再編案を作成中です。 問④ 地図情報システムを活用するに至った経緯とその効果について 答④ 交通事情によるバスの遅延が多く発生し、電話による問い合わせが多くあったことから、バスの現在地を可視化し、利用者等が確認できるバスロケーションシステムの導入が求められていました。この様な状況の中民間会社からの提案もあり、また他分野でも活用できる地図情報システムを活用して整備することにいたしました。その結果、利用者はまだまだ限定的であるが、電話による問合せ件数は年々減少している。 感 想 まず初めに感じたことは、このような大きい事業を、利用者の負担無しで行っていることに驚きました。また議会にあってもこの無償化は若干、話題に上がるものの全体としては、容認でした。まだまだ本市においても福祉に対する寛容度が必要と感じました。			

様式第 2 号

視察研修先	大阪府豊中市	氏名	古沢 清志
視察研修項目	幼児教育サポートセンターについて		
概 況 豊中市は大阪府の北西部に位置し、南は首都圏と並ぶ日本経済の中核管理機能を担う阪神都市圏の中心都市である。明治43年に箕面有馬電気軌道が開通し、住宅都市として開け始めた。花と緑に包まれた服部緑地や豊島公園、高校野球発祥の地「豊中グラウンド」を記念した「高校野球発祥の地記念公園」などの施設や場所がある。人口は40万人ほどで大きな都市である。今回の視察目的は幼児教育の必要性和充実した教育を見ることです。 質 疑 問① 大阪府幼児教育センターとの連携について伺います。 答① ・アドバイザーフォローアップ実践研修に参加しています。・各市町村の研修や公開保育の情報を府アドバイザー研修で案内していただいています。・府新任研修の講師として本市アドバイザーが参加予定です。 問② 豊中市におけるアドバイザー認定者の数を教えてください。 答② 平成29年度からの認定者数は合計131人です。 問③ 幼児教育アドバイザーの派遣実績について教えてください。また、派遣は各施設からの要請に基づいて行なうものだと思いますが、貴センターから各施設への周知等はどのようにされていますか。 答③ 令和5年度の派遣実績は11回です。研修開催時にチラシを配布し周知を行っています。 問④ 幼児教育サポートセンターを設置するにあたり、一番苦労したことは。 答④ センター設置前から巡回等実施していたため、特に苦労したことはありません。 問⑤ 幼児教育サポートセンターを設置したことに対し、現場の先生や保育所等各施設からの反応はどのようなものがありましたか。 答⑤ 上記の通り、センター設置前からの活動がありましたので、それほど大きな反応はありませんでした。 問⑥ 幼保小連絡協議会の具体的な内容と年間の回数を伺いたい。 答⑥ 豊中市では「幼保こ小連絡協議会」という名称で、令和5年度については各、年2回の協議会・校区連絡会及び夏季研修会を開催しました。夏季研修会では、「互恵性の高い『架け橋』を創出する」をテーマに、6つの分科会形式で開催しました。 感 想 寒河江市では、まだ行われていない事業でしたので非常に関心がありました。塾の経営者等にも理解していただければ進む事業だと感じました。貴市の発展をお祈りいたします。			

様式第2号

視察研修先	大阪府摂津市	氏名	古沢 清志
視察研修項目	摂津SUNSUN塾について 教員の人材育成について		
概 要 大阪平野の北部に位置する摂津市は、淀川の豊かな自然に生まれ、古くから農耕が盛んで、大阪と京都を結ぶ水陸交通の要所としても重要な役割を担ってきました。昭和になると阪急電鉄京都線が開通し、それまでの準農村的な風景が都市的風景に変わり大きな発展となっていました。昭和39年には東京オリンピックの開催にあたり、東海道新幹線が開業し、ますます発展しました。今回は摂津SUNSUN塾の内容について学んできました。 質 疑 問① 摂津SUNSUN塾を始めたきっかけ（理由）について伺います。 答① 現在の事業目的は地域の事情により、学校以外で学ぶ機会が少ない児童生徒にたいして、学習環境を保証するとともに、個に応じた支援によって、基礎的・基本的な学力向上を図ることです。 問② 一度参加した方が次年度も継続して参加するケースは多いのでしょうか。 答② 継続して参加している児童生徒は一定数います。令和6年度は4割程度が継続して参加しています。なお、中学2・3年生につれて、家庭学習習慣の定着やその他の学習塾の選択などがあり、参加数は減少傾向にあります。 問③ 応募者多数による抽選の場合、一定の条件等による優先順位は設けるのでしょうか（世帯の所得状況等） 答③ 家庭の事情により学校以外で学ぶ機会が少ない児童生徒に対して、学習環境を保証することが本事業の大きな目的です。世帯の所得状況等の条件は設けず、できるだけ多くの児童生徒を受け入れております。 問④ 学習指導業務委託者と学校側との連携について教えてください。 答④ 各学校における参加者名は市教育委員会を通して共有しています。各学校が参加者名簿をもとに、基礎的・基本的な学習内容の定着に課題が感じられる児童生徒に対し、各学校の学級担任等より摂津SUNSUN塾参加の促しができるようにしております。また、連絡等については業務委託者と保護者が直接行い、学校に対して連絡する必要がある場合は、市教育委員会を通して連絡しております。 問⑤ 事業全般について、今後の課題等があれば教えてください。 答⑤ 本来の目的である家庭学習の定着ができない児童生徒や基礎的・基本的な内容の定着に課題がある児童生徒のさらなる参加が今後の課題です。 感 想 大阪府には何回か教育について視察をさせていただきましたが、学校を越えてわからない箇所を再び教えてくれて、本当に親切な土地柄だと思います。参考にさせていただきます。			

様式第2号

視察研修先	株式会社コーミン(大阪府大東市)	氏名	古沢 清志
視察研修項目	morinekiプロジェクトについて		
事業内容 「morineki」プロジェクトは大阪府大東市にあり、コーミンという会社が開発を行っている事業である。社長は元大東市役所職員で公務員時代から開発を手掛けてきた入江智子さんという方で、事業の説明や現場案内もしていただきました。事業内容として、公営住宅を民間会社がりノベーションして、再び貸し出すという新たな公営住宅のあり方でした。 社長さんがこの事業をするに当たって3つの動機があったそうです。 ①入居者の生活がジャンプアップする市営住宅を作りたい、周辺の住民が喜ぶ市営住宅の建替をしたい。 ②建物を適切に維持管理したい。設計・施工者の入札制度に疑問。真っ当な「大家」になりたい。 ③地域のキーマンの「地域の象徴のような四角い箱の公営住宅は要らない」「外から“この地域に住みたい”という人を作りたい」の声に応えたい。 この様な動機から市役所を辞めて会社を立ち上げ、現在は順調に事業が進んでいました。大東市公民連携基本計画において、能動的なまちづくりにより、まちへの矜持を再構築するために、「自分でつくったまちに住む」を開発理念とし、大東に住み、働き、楽しむ、ココロとカラダが健康になれるまちを目指し住環境を一体的に開発しておりました。次世代につながる住宅地域の再生を図るために、エリアに点在する公的資産を活用して一体的、段階的にエリア開発を進めるものです。全国で初めてPPP手法を用いて、借上げ公営住宅・民間賃貸住宅の住宅棟、生活利便施設等の整備を行なうものです。 感想 手掛けた現場を見学させていただきましたが、周りの風景とは変わったものがあり、ゆったりとした作りになっておりました。家賃も1.5万円からと寒河江の地にあってもないくらいの安さでした。そこには遠くから本社移転してくる会社もあり、都市としてバランスのとれた新しいタイプの地域であると感じて参りました。わが地域にあってもリノベーション技術を学び新しいタイプの都市を作っていかなければならないと感じてまいりました。株式会社コーミン様の益々のご活躍をお祈りいたします。			